

TOKIWA

2023

WINTER

vol.210

INTERVIEW

介護の力を見える化する取組み「気づき」の大切さを伝えたくて



INTERVIEW

介護の力を見える化する取り組み 「気づき」の大切さを伝えたくて

今回の広報誌「TOKIWA」秋号では、城西国際大学 福祉総合学部福祉総合学科 介護福祉コース 准教授の山本満智子先生にインタビューしました。

― 山本先生は大学で福祉や介護を研究しておられますが、どのようなきっかけでこのお仕事をするようになったのでしょうか？

私は、福祉の実践経験が約25年あります。人とかかわる福祉の仕事の奥深さに魅了されました。仕事をしながら研修会に参加しそこで知り合った介護の仲間たちと事例研究会を立ち上げ、研究活動を始めました。事例研究を通して介護職個人の専門性が埋もれている現実を知りました。また、同じ物を観ても気づく人と気づかない人がある。「なんでなんだろう？」と思ったのが「気づき」の研究を始めるきっかけとなりました。

― これまでの研究成果の幾つかを紹介していただけませんか？

「気づき」は大切だといわれていますが、研究として着目されていない実態があります。「気づき」の概念化をすれば新人研修をはじめ、介護の現場に役立つと考えました。埋もれている個人の専門性を一般化できるようにデータを収集し概念化しようとする取り組みです。例えば、目線カメラを介護職の人に付けてもらい、何を観て何を考え利用者にどのような声かけ、介護を展開しているかを明らかにしようと考えていま

す。研究テーマは、『介護福祉実践領域における「気づき」の生成過程についての研究』です。

― どのような苦勞がこれまでありましたか？

介護の特性として、利用者も介護職員も個人差があることや利用者の状況が日々変化することなどから、データの収集や分析など研究方法に悩みます。介護の独自性を明確にし、その他の専門領域を活用しながら方法を模索しています。尊厳や自立支援を基本に、五感を活用し、状況判断し利用者へアプローチしていく専門職性を明らかにしたいですね。

― どのような時にこの仕事をしていてよかったと思われますか？

この間、「ようこそ先輩」という授業プログラムを作り卒業生から授業をしてもらいました。後輩の前で物おせず授業をしている卒業生の逞しく成長している姿をみると教師冥利につきます。

― ときわ園にはどのような魅力があるか教えていただけますか？

介護実習で大変お世話になっています。コロナ禍で大変な中、実習生を指導くださっている職員の方々に改め



城西大学助教授 山本 満智子先生

て感謝申し上げます。ときわ園の実習では、教育連携の大切さを実感できました。それは、介護実習を終えた学生たちの変化です。実習終了後、計画的に物事を進めていく力をもつことができた学生が多くいます。安心して学生を託せる施設だと思えます。

― ときわ園には今後どんなことを期待しますか？

先ほど、「気づき」の研究のお話を紹介させていただきました。ときわ園の職員の方々と一緒に合同研究ができたら素敵だなと思っています。また、施設と大学がつながることで、介護福祉士養成教育の向上や人材育成に貢献できたらいいですね。既に井上介護職長から講義をいただき大好评でした。今後お願いしたいですね。今回はこのような発言の場をいただきありがとうございました。

山本先生、この度はインタビューに応じてくださりありがとうございました。

洞察力

コロナウイルス感染がまだ収まらない中ですが、2023年を迎え、皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。

暗いニュースが多い中ですが、昨年卡タールのドーハで開催されたサッカーワールドカップは、日本が強豪のドイツとスペインを破って決勝トーナメントに進んだことで大いに盛り上がりました。残念ながら初のベスト8には届きませんでしたが、多くのファンやサポーターは、選手たちにここまで盛り上げ、明るい話題を提供してくれたことに感謝の言葉を述べていました。しかし、一部では、試合でのまずいプレーや、失敗したことを批判したり、選手を誹謗中傷する声も聞かれました。とても残念なことです。もちろん、プレーを振り返って反省し、次につなげることは大切ですが、怒りをぶつけるためだけに批判するのは不適切ですし、

誹謗中傷はもってのほかの行為です。

人の失敗や悪いところを批判するのは簡単ですが、その人がこれまで払ってきた目に見えない努力や、背景や気持ちに目を留めるのは大切なことです。サッカーで言えば、選手たちは辛い練習に耐え、並々ならぬ不断の努力をし、本番は大変なプレッシャーの中でプレーしているに違いありません。そうした点を考えると、自ずと選手たちに拍手を送りたくなるのではないのでしょうか。洞察力(表面的な部分だけでなく、物事や人の本質まで見通

す力)があればすぐに怒ることはないと言われています。介護の仕事をする上でもこうした視点は大切です。今の時代誰もが大変な状況の中にあるので、失敗や欠点を批判するよりも互いの良い点に目を留めて、励まし合っていきたいものです。

コロナウイルスが完全に消滅することは期待できませんが、ウィズコロナの言葉のもと、上手に共存しながら少しずつ元の日常を取り戻していくことができるよう心から願っております。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



デイサービスこもれびの1日

デイサービスこもれびの1日は歓談や、ゆったり入れる入浴、個別でできるレクリエーション。お昼には季節に合わせた食事など、ご利用者が楽しめるスケジュールが組まれています。その中で今回紹介するのは、午後の集団レクリエーションです。

レクリエーションというと、どのようなレクリエーションを想像しますか？個々では塗り絵、数字合わせ、間違い探し、計算問題などがありますが、こもれびでは午後のメインイベントとして、みんなで楽しめるレクリエーションを用意しています。

ご利用者に人気のレクリエーショ

ンはゲートゴルフです。ゲートボールの大きさがあるボールをパターで打って点数を競います。ご利用者からは「もっと力入れてー」「頑張っ！」など応援やアドバイスのお声が聞こえ、とても盛り上がります。他には、輪投

げや、筒転がし、ボーリングなど様々な集団レクリエーションを毎日行っています。ちなみに、優勝者には表彰状を用意していますよ。

ぜひ、デイサービスこもれびにお越しください。

こもれび介護職員
月川 靖子



研究活動



授業風景



ゲートゴルフ

デイサービスの活動

穏やかな晴れ間には広々とした園庭にて園芸活動や外気浴を楽しみ、気の合うお仲間と共に和気藹々と屋外活動に取り組まれております。日替わりのレクリエーションや機能訓練はもちろん、敬老週間のお祝いや職員と共に踊りを楽しんで頂けるようなイベントを定期的で開催しております。私たちと共に充実した時間を過ごしましょう！



素敵なご夫婦



こもれびのもと一服



素敵な笑顔



紅葉散歩



広々とした芝生の園庭で日光浴



色とりどりの花壇を楽しむ



外気浴を楽しむ



大きな樹の下で



敬老のお祝い



日々の感謝を伝えて



実習生とオセロ対決



ストライクを狙って



食事を楽しむ…



塗り絵に集中して…



お誕生日祝い！



種芋の植え付け準備



アサガオの種取り中



食前体操を皆様で



昇降時の留意点を…



ストレッチベンチでストレッチ



職員と共にソーラン節！



タマネギの植え付け



秋ナスの収穫



実習生に園芸指導を



励ましあいながら歩行訓練

八街市主催フレイル予防講演会を実施！

作業療法士
石田 琢哉



八街市からの依頼を受け10月28日、フレイルの予防と対策をテーマとして、「健康でいるために」と題し、講演をさせていただきました。75歳以上の方を対象とし、市内からほぼ定員いっぱいのご参加があり、大変ご好評いただきました。

フレイルとは健康と要介護・寝たきりの間を指し、簡単にいうと「加齢によって心身が老い衰え、社会とのつながりが減少した状態」のことです。2014年に日本老年医学会によって提唱。65歳以上の10人に1人がフレイルともいわれています。

講演ではフレイルチェックの後、具体的にどう予防し、どんな対策をとるのかをお伝えしました。そして、フレイルは可逆性であるということ、つまり、もしフレイルになったとしても、健康な状態に戻すことができる。予防と対策で、「健康寿命」を延ばそうというお話をしました。



講演の様子

併せて体力測定会を実施し、握力や歩く速度などを測り、ご自身が平均と比較してどうか、転倒のリスクはどのくらいかを知っていただきました。

本講演に参加して下さった方々はもちろん、少しでも多くの方の健康寿命をのばすことができたと願っています。



タオルを使った運動

打ち立てそばに舌鼓

管理栄養士
谷口 亜弥



自分のために作られる料理の美味しさは、多くの方が感じておられることと思います。ご利用者もいつも食事を「おいしい」と喜んでくださっています。それで「作った人に伝えます」とお伝えし、実際にお声を届けています。その声を受けてよりおいしい食事を提供しています。

11月末には、委託給食会社エームサービス様のそば打ち職人を招き、手打ちそばの提供をいたしました。本来はご利用者や入居者様の目の前で実演する予定でした。しかし、今回

は感染対策などに配慮して別室にて行われた様子を録画し、各フロアでご覧いただきました。料理が目の前で作られていく様子にはいつも興味が尽きません。もちろん実演だけでなく、打ったそばを厨房内でゆで、お昼に皆様に召し上がっていただきました。皆様「おいしい」「香りが良い」ととても喜んでおられました。

ご利用者には、ときわ園で過ごしていただく日々を幸せにできるよう、職員は日々努めています。



手打ちそば



いただきます！

敬老会 ～新しいスタイルを模索しながら～

業務サポート部門 リーダー
田村 知之



令和2年度と令和3年度は、パンデミックによる自粛要請の中で、ささやかな「敬老の日」としてミニセレモニーを行いました。様々なイベントができなくなった中で、少しでもご利用者に楽しんでいただけるよう工夫した、貴重な機会でした。

令和4年度は、千葉市の敬老会補助事業が再開され、新型コロナウイルス感染防止に細心の注意を払った新しいスタイルでの開催が要請されました。実施要項を注意深く確認し、ときわ園としてどのように行うかを慎重に検討した結果、かつてのような大規模な開催は時期尚早と判断し、引き続きささやかな形で開催することに決定しました。

今年は9月19日（月）の敬老の日に実施しました。具体的には、各フロアで、ご利用者に集合していただき、職員からご利用者へのメッセージをお読みして、ささやかなプレゼントをさせていただきました。また、米寿や喜寿などのお祝いの方や95歳以上の方には、理事長および施設

長からお花が贈呈されました。多くのご利用者は、メッセージが読まれ、プレゼントを受け取ると、とても喜んでくださり、涙を流される方もおられました。中には、メッセージが読まれるときに立ち上がって耳を傾けてくださる方もおられました。

今回の初めての試みとして、ビデオ会議システムの一つであるZoomを使って、各フロアでのセレモニーの様子をご家族に配信することにしました。ときわ園では、パンデミックになってから、朝礼や会議や面会など様々な機会にZoomを使うようになり、すっかり定着しています。それで、上手いかないとしても、少しでもご家族にご利用者と接する機会を提供したいとの願いから、Zoomを活用することにしました。敬老会専用のIDとパスワードを作成し、ご家族にご案内しました。

当日は、各フロアでのセレモニーを時間差で行い、それぞれの指定された時間にご家族に入室していただき、主に理事長と施設長のお花

の贈呈の場面を中心に視聴していただくようにしました。初めてのことであり、Zoomに不慣れなご家族も多かったと思いますので、実際にはそれぞれのフロアで数名のご家族が参加して下さっただけでしたが、参加して下さったご家族からは、「画面越しで顔を見たり話ができたのでとても良かったです。ありがとうございました。」との声を頂きました。ご家族に参加していただく場面もあったことで、職員にとっても、意義のある体験をすることができました。

世界的にはノーマスクが普通となり、パンデミックは過去のものとなりつつありますが、日本ではまだまだ注意が必要と言えそうです。来年度の敬老会はどんな形で行えるかは未定ですが、ご利用者やご家族の皆様に一層喜んでいただけるようなイベントを行えることを願っています。



理事長からの贈り物



喜びの様子

体験型の避難訓練実施 ～災害に対する考え方の変化～

業務サポート部門
酒井 潤



平成23年3月11日の東日本大震災の発生時、私は卒業を1週間前に控えた小学生で楽しみ会の最中でした。楽しかった雰囲気は一変し、いつまた大きな地震が来るか不安を覚えながら卒業式を迎えました。時は流れ、現在ときわ園の防災担当として働いています。その中で気づいたことは、職員一人一人が災害は自分の身近にあるものであり、緊張感を持って業務に当たる必要があるということです。

千葉市防災普及公社の防災普及車（起震車）による地震体験を実施しました。この防災普及車は今まで日本国内で起きた大きな地震の前後左右の動きをリアルに再現し、バ

ーチャルリアリティ(VR)をプラスした視覚にも訴える機能が搭載されています。

職員からは「災害の怖さを改めて理解できた」、「今働いているフ

ロアのこの棚がこの地震では倒れてしまうのでは」という感想が聞かれ、防災に対する意識を高めることができました。



起震車での地震体験

パンデミックにおいても「利用者が尊厳を保ち、安心して暮らせる福祉施設を目ざす」

施設長
酒井 章年



特別養護老人ホームときわ園では、8月～11月、本館において2度にわたり新型コロナウイルス感染症が拡大してしまいました。幸い、11月24日に終息宣言が出され、安堵しているところです。とはいえ、長期にわたり、多くのご利用者に不便を強いることとなり、また、ご家族の皆様にも多大のご心配をおかけしてしまいました。さらに、入院されたご利用者も数名おられ、ご家族の心痛も如何ばかりかと存じます。心からお詫び申し上げます。

早速、ときわ園では感染症対策を見直し、施設長や感染症対策委員等による定期的巡視の徹底、実践的な研修の計画等、進めております。

これまで、ときわ園は様々な感染症と闘ってきましたが、今回のコロナウイルス感染症ほど難敵だと感じたことはありません。ときわ園が所属する社会福祉法人常盤会の法人理念は「利用者が尊厳を保ち、安心

して暮らせる福祉施設を目ざす」というものです。この理念の追求をまさに一から始める決意でおります。今後とも感染症との闘いを続けてまいります。



クラスターの中で働く職員たち

活動ログ

10/13

秋の実りの釜めしです

釜めしの蓋を開けるとそこには、ゴボウとほうれん草を加えた炊き込みご飯。鮮やかに添えるのは、錦糸卵ともみじの形に切り抜いた人参、さらに焼き鳥と栗です。本メニューは数日前から楽しみにされている方も多く、デイサービスではご利用日を変更された方もいたとか。入居者様には数日前から紹

介をしています。皆様召し上がる前から「とてもおいしいに違いない」と喜ばれていました。実際、普段少食のご利用者におかれても、ほぼすべて召し上がっておられました。中には記念に釜めしの器を持ち帰ろうとされる方もおられたほどです。しかし、これはレンタルなのです。



釜めし

11/1

淑徳大学ゼミで外国人介護士の活躍の様子を紹介

特別養護老人ホームときわ園では、EPAベトナム人職員をはじめ外国人介護士が活躍しています。EPAや外国人人材に関する事で日ごろお世話になっている淑徳大学藤野達也教授のお招きをいただき、先生のゼミ生の皆さんにEPAについてお話しする機会をいただきました。出席者代表は、EPA介護福祉士候補者 レー ティ ホアイ フオン職員。フオン職員はときわ園で就業を開始し3年を経過。年明け1月には、介護福祉士国家試験に臨みます。ベトナム

本国での日本語教育後、マッチング、来日後研修、そして勤務開始の流れをスライドで

紹介しました。藤野先生のリードのもと、学生さんたちは熱心に聞き入っていました。



淑徳大学藤野教授ゼミの様子



ゼミを主宰する藤野先生と、発表するフオン職員

11/24

こもれびの庭にアマガエル

秋も深まり、紅葉が綺麗な季節となっていますね。こもれびの庭は、日当たり良好で、ぽかぽか暖かい日差しが降り注いでいます。お花に水をあげようと、蛇口に近づくとカエルが気持ち良さそうに日向ぼっこをしていました。太陽の方に身体を向け、うっとりと呼ぶ姿がとても可愛いので、写真を撮りました。アマガエルの身体の色は緑色だけでなく、茶色、灰色、白と変化するようです。この子は、見事に、

レンガと同じ色になっていました～(^^♪
本格的な冬がやってくる前に、利用者

のご家族がお花を寄贈してくださり、早速庭に植えました。



アマガエル



寄贈されたパンジー

編集後記

「悲観的に準備をし、楽観的に対処する」。これは危機管理上の大切な原則です。ときわ園本館で新型コロナウイルスのクラスターが発生している間は、常に前向きな気持ちで対処していくという意味で「楽観的に対処する」必要がありました。しかし、クラスターが終息しましたので、「楽観的に対処する」時期は終わったと言えます。むしろ今は、「悲観的に準備を」する時です。クラスター終息でほっとするのではなく、今後クラスター発生を防ぐために何ができるかを様々な観点から真剣に考えるべき時です。感染症対策委員会を組織し直し、体制を強化しております。今後も広報活動の中でその取り組みを紹介してまいります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

